高齢者住宅新聞 6/18. 週刊.

首都圏以外に初進出

Leaf音楽療法センター

首都圏の介護事業所や障害者施設約80ヵ所で音楽療法サービスを実践しているLeaf音楽療法センター（東京都新宿区）は、今夏、初めて地方へ進出し愛知で活動をスタートさせる。藤井洋平代表取締役に活動内容を聞いた。

藤井洋平
代表取締役

――事業内容は。

藤井　2009年に法人化し、来月で6年目を迎えます。現在、東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県の民間介護事業所をメインに音楽療法サービスを提供しています。当初私のみで始めた事業ですが、現在は25名の音楽療法士が所属しています。今夏から、首都圏を初めて飛び出し、愛知県にある有料老人ホームでサービス提供を開始します。

――昨年と比べ契約事業所数も音楽療法士の数も増えているが。

藤井　事業所数を増やすことも重要ですが、それ以上にサービスの質を重視しています。当センターのサービス料金は、12ヵ月で1万2600円（交通費別途）から。有償ならではの質をお届けします。ボランティアや個人による音楽療法は質にばらつきが出てきますが、組織化していると質が一定化してきます。当センターは年間契約で、現在更新率はほぼ100%です。

▶楽器演奏を披露する様子

――印象に残っているエピソードは。

藤井　ある老人ホームに、自分の物を盗られたと妄想する入居者がおり、他の入居者となかなか馴染むことができていませんでした。そこで、音楽療法を通し、楽器演奏や動作などの役割を与えることでコミュニティが形成され、次第に他の入居者とコミュニケーションを図れるようになりました。認知症を治そうとするのではなく、もともとの能力を発揮させ、コミュニティ形成を手助けすることが音楽療法の強みです。

――本を出版したようだが。

藤井　当社初となる本「音楽療法のプロが教える　高齢者のかんたん！音楽レクリエーション」を今月15日に出版しました。福祉施設の介護スタッフを対象とした本で、音楽療法で用いるアクティビティを紹介しており、音楽療法士である私が監修しています。オールカラーでわかりやすい図解と説明に加え、脳科学を専門とする医学博士による解説を収録しています。楽器がなくても特典CDを使用することで誰でも簡単に取り組める実用的な1冊です。予算が厳しくプロの音楽療法士を雇えない施設のためにノウハウを提供しようと思い、出版しました。この本により、音楽療法そのものに興味を示してもらえたらと思います。

▶オールカラーで見やすい

――今後の展望は。

藤井　いいものにはお金をかける風潮が強くなっています。当社は音楽療法士の職能団体として、療法士を全面的にサポートし、その道1本でも生活が成り立つよう事業を確立していきたいです。

第30回　ショートステイの誕生と中止①

介護者が願う「息抜きサービス」

「喘息服務」、一見何のことかわからない人が殆どでしょう。中国語で「ショートステイサービス」という意味で、漢字の通りで「喘ぐ」、つまり「息抜きサービス」をいいます。

上海市内に住む60代の男性、黄さんの母親は9年前に脳梗塞になり、認知症を患うことになってしまい、身体が不自由になってしまったため、黄さんが母親の介護をしてきました。毎日介護に追われ、自由な時間がなく、自分の生活を失っていました。

黄さんは「何度もすべてを投げ出し、逃げたくなった」と話すが、「今はこれまで大事に育ててくれた母親の恩返しをする時だ」と自分に言い聞かせて、9年間頑張ってきました。

上海市の戸籍人口は1443万2340万人のうち、65歳以上の人口は25万6630万人と総戸籍人口の17・9%を占め、上海市の高齢者人口率は、国内で最高で、昨年は、2012年に比べ1万1360万人（4・6%）増加しました。

政府が年々施設のベッド数や、在宅介護の対象者を増やしても、高齢者の人口増加に追い付かない状態が続いており、政府は施設を建設するより、地域介護のほうが財政的負担少なく、介護スタイルも多様なため、数年前から90%の人は家庭で老後を過ごし、7%は在宅介護、3%は施設介護で過ごす「90773」という政策モデルを掲げています。

家族の負担に救いの手

黄さんはあまりに疲れているときは、近所の人に頼み、母親の面倒を見てもらったりしました。わずか数時間だけでも、息抜きができ大いに助かったと言います。

このような状況を考慮し、上海市政府は一年半前から「喘息服務」（ショートステイサービス）を実施するようになり、高齢者が住む地域の社区（コミュニティ）にある施設に一定数のベッドを確保し、黄さんの母親のような高齢者を短期間入居させる取り組みを始めました。

該当する家庭はまず所管の「在宅介護サービスセンター」に申請します。社区ごとにことなりますが、申請が通れば、最短7日間最長2週間で入居が可能です。

また、上海市最大の区である浦東新区が昨年区内に住む600の高齢者世帯に対してアンケートを行った結果、家族の手で介護している多くの家庭は、切実に「喘息サービス」を希望していることがわかりました。

このような政府の試みに対して、専門家は、政府の役割を一部代行している地域の政府機関は今後、要介護者だけではなく、介護側の家族の支援も必要だと言います。家族が継続して介護を担っていけるように、彼らが息抜き・リフレッシュできるような環境創りが必要であるとの見解を示しています。また、現状の政府の方針については、評価しつつも、各区で規定が異なることを作ります。

ーディネーターが見る
の今
ランニング代表　王　青

コフィール
国上海市出身。1989年留学のため来日。学学習を経て大阪市立大学経済学部業。95年より日本企業介護福祉関係部に勤務。上海市民政局や、上海市障害連合会などとの長年の親交があり、上海と日本の介護福祉分野の交流・ビジネス支援してきた。2002年7月フリーに。福祉野を中心に日中のコーディネーターとして動中。市場調査、マスコミ取材、ビジネス援、視察企画など多くの案件を実現しており、上海福祉分野に関しては第一人である。

ナオバ

28日セミナー開催

法改正後の新ビジネスモ

◀大阪南センター

スウェ
所（東京
160回
究講座
高齢者と
で自立で
16日に開
者でもあ
ーデン・
ィケア（
デン）の
・オスト
マネージ
壇した。
前半は
ケアの現
て説明。
が施設入
ケアサー
用に満足
状況は満足
最近では
や就労な
なことに
ジしたい
立意識の
ら、在宅
支援サー
向にある
その中
されている
ナルアシ
ばれるサ
要に応じ